

～本草薬膳学院 特別講座～

編集者から見た中医学の魅力

講師 山本勝司 先生

東洋学術出版社会長・日本中医学会顧問

本草薬膳学院は今まで数々の特別講座を開き皆様と勉強してきました。今回は中医学とは何か、どのように向き合うか、中医学の日本での影響とは、そして中医学の魅力とは何なのかを学習しましょう。

「中医学の医学体系、日本にどの様にして渡ったのか、日本での発展について学んでみたいけれど、何から勉強を始めたらいいかよくわからない」そんな方々へ今回は、中医学の分野で30年以上も勤勉に努力し、中国の中医学関係文献・情報の翻訳、出版、日本における中医学導入状況を報道する仕事に携わっていた東洋学術出版社会長の山本勝司先生をお迎えし、「編集者から見た中医学の魅力」と題して奥深い中医学の日本での発展と影響についてお話をいただきます。中医学は日本へ渡りそして多くの者が中国へ中医学を学びに渡り少しずつ我々日本人に浸透してきました。日本へ渡った中医学のその後から現代までを紹介し、編纂されてきた日本の歴史背景も踏まえて講義していただきます。

どなたでもご参加いただけますので、お知り合いの方をお誘い合わせの上、お申込み下さいませようお願い申し上げます。

講義日：2014年10月17日(金) 13:00～15:00(2時間)

お申込み・振込み締切日：10月10日(金)

場 所：本草薬膳学院教室 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町22番6号マルカ日甲ビル2階
Tel：03-6206-2751 FAX：03-3662-3800 E-mail: haiyang@honzou.jp

参加費用：4,000円

先着40名(申込順 定員になり次第締切ります)

振込先 三菱東京UFJ銀行 神田駅前支店 普通預金 口座番号：2186645
名義：本草薬膳学院(ホンゾウヤクゼンガクイン) 辰巳 洋(タツミ ナミ)

※申込書をお送りいただき、お振込みを確認いたしましたら、お申込み完了となります。振込み手数料はご負担くださいませよう、お願いいたします。

-----切り取り線-----

本草薬膳学院 特別講座「編集者から見た中医学の魅力」申込書

FAX：03-3662-3800

お名前：_____

ご住所：(〒 _____) _____

TEL：_____ FAX：_____

携帯番号：_____

山本勝司(やまもと・かつじ)先生のプロフィール



1936年、大阪生まれ、京都市育ち

1960年、大阪外国語大学中国語科卒業

1961年、中国の書籍を輸入・販売する東方書店に入社

1964～1968年、文化大革命を挟む4年間、北京外文出版社に勤務

日本向け出版物の日本語添削の仕事に従事。激動の中国を体験

1969～1979年、東方書店に勤務

1980年、中医学専門出版社の東洋学術出版社を設立、季刊『中医臨床』を発刊

中国の中医学関係文献・情報を翻訳して紹介するとともに、日本における中医学導入状況を報道する仕事に従事

2010年、東洋学術出版社を引退、会長職につく

2011年、日本中医学会顧問に就任

山本勝司先生からのメッセージ

季刊『中医臨床』が発刊されたのは1980年、ちょうど34年前です。当時は針麻酔ブームが起こり、世界から中国の針に関心が向けられていました。その後、中国にはもっと大本になる中医学という大きな医学体系が存在することを知って、俄然中医学を学ぶ運動が、澎湃として巻き起こりました。中国から大勢の老中医や専門家が来日して中医学の解説や実演をしてくれました。留学生がつぎつぎと中国へ渡り中医学を吸収してきました。日中医学交流が未曾有の盛り上がりを示しました。気功、太極拳、推拿、そして薬膳。医療の世界からさらに健康、養生の分野にまで枠が拡大します。日本では、さまざまな中医学学習会が連合して学会ができましたし、世界的には中医学会の世界連合ができ、さらに中医学の世界標準にまで議論が広がってきています。巨大な医学体系へと発展しました。

この30数年の前半、あるいは全体を通じて、われわれにとっての中医学はいつも学習の対象でありました。つまり学ぶ一方でした。中国の古代に誕生し、長い歴史の中で錬成されてきたいわば「外国の医学」です。日本と切っても切れない共通部分があるとともに、どうしても日本人にはわかりようのない異質な部分が存在することも確かです。そうしたなかで、この中医学とどう向き合い、これとどう取り込み、どう自分たちのものにしてゆくのか。いま日本の主体的な取り組みが問われようとしています。

皆さんとともに、中医学の魅力を考えてみましょう。